

# 自己点検・評価シート

平成25年度 第9次鳥取市総合計画

整理No.	1-(1)-②	所属名	教育委員会事務局 学校教育課
事務事業名	姫路市・郡山市小中学生交流事業		

## 1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

## 2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	1 姫路市・鳥取市の中学生 2 郡山市・鳥取市の小学生
意図 (どのような状態にするために)	親睦や情報交換を深め、姉妹都市交流の継続発展と、両市の相互理解や友好を促進する。
手段 (どうするのか)	1 姫路市との中学生交流事業 両市の中学生が交互に訪問し、合宿生活等を通じて交流する。事業は鳥取市中学校長会に委託して実施する。 2 郡山市との小学生交流事業 両市の小学生が交互に訪問し、自然体験活動等を行う。事業は鳥取市小学校長会に委託して実施する。

## 3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	[姫路市]姫路市へ中学生を派遣し、交流を行う。 [郡山市]小学生22名、引率者6名が、郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	[姫路市]姫路市の中学生を受入れ、交流を行う。 [郡山市]小学生22名、引率者6名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	[姫路市] 姫路市へ中学生35名、引率者8名を派遣し、交流を行う。 [郡山市] 郡山市の小学生が、本市を訪問し、本市小学生15名、指導者9名が迎え2泊3日の交流を行う。	[姫路市] 姫路市の中学生を受入れ、交流を行う。 [郡山市] 小学生22名、引率者6名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	[姫路市] 姫路市へ中学生、引率者を派遣し、交流を行う。 [郡山市] 郡山市の小学生、引率者が、本市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	
	年度別実績	[姫路市]姫路市へ中学生35名を派遣。 [郡山市]東日本大震災により、派遣は中止。全小学校が郡山市全小学校に応援メッセージを作成して送った。	[姫路市]姫路市の中学生35名を受入れ、交流を行った。 [郡山市]小学生22名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行った。	[姫路市] 姫路市へ中学生35名、引率者8名を派遣し、交流を行った。 [郡山市] 郡山市の小学生が、本市を訪問。本市小学生15名、指導者9名が迎え2泊3日の交流を行った。			
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	4,322	6,482	4,873	3,579		
	直接経費 A	1,323	3,512	1,959	3,579		
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	1,323	3,512	1,959	3,579			
人件費 B	2,999	2,970	2,914				
職員数の内訳	正規職員	0.40	0.40	0.40			
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00			
	臨時職員	0.00	0.00	0.00			

## 4. 平成25年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>(1) 姫路市中学生交流事業 鳥取市中学校長会に委託し、両市の中学生が交互に訪問し、合宿生活等を通じて交流を深める。派遣と受入を1年交代で実施している。</p> <p>(2) 郡山市小学生交流事業 郡山市との交流を深めるため、両市の小学生を隔年で双方の市に派遣し、両市の特色を生かした交流を行う。両市の小学生が体験活動や宿泊等で交流活動を行う。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>(1) 姫路市中学生交流事業 中学生35人、指導者8人が姫路市を訪問し、事業を実施した。</p> <p>(2) 郡山市小学生交流事業 市内15校から15名の児童が参加し、郡山市児童を迎え、両市児童が自然体験活動や歴史・文化理解等を通し絆を深め、姉妹都市としての結びつきを強めるきっかけとなった。</p>
-----------	--

## 5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	交流実施学校数(姫路市との中学生交流)	校	目標	18	18	17	17	
				実績	18	18	17		
	(指標の説明) 姫路市との中学生交流に生徒を派遣する中学校数								
	2	交流実施学校数(郡山市との小学生交流)	校	目標	14	15	15	15	
実績				14	15	15			
(指標の説明)									

## 6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	交流実施学校数(姫路市との中学生交流)	校	100%	100%	100%		
	2	交流実施学校数(郡山市との小学生交流)	校	100%	100%	100%		

## 7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	姉妹都市間の継続した交流と両市教育の発展のため妥当と考える。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	姉妹都市の人との交流や文化にふれることで様々な刺激を受けるとともに、ふるさと鳥取の良さを再認識することにもつながっている。さらに、代表児童生徒がその経験を各校に持ち帰ることで、姉妹都市への理解やふるさと鳥取を想う心を広く培うことができる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	鳥取市中学校長会、鳥取市小学校長会に委託し事業実施することで、交流事業の成果等を市内全校に広めることができる。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	中学校については全校対象に、小学校は3グループに分けて隔年で受入・派遣を行っている。

## 8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	姫路市との交流については、43回の長い歴史を持った本交流事業は、両市の文化交流、中学生の健全育成に有効である。 郡山市との交流については、相互に訪問しての交流事業を継続し、姉妹都市としての絆を一層深めていく必要がある。	
今後の課題・方向性	(姫路市) 今後も両市の交流、生徒の成長のために有効な事業であり、継続していく必要があると考 えている。 (郡山市) 郡山市と鳥取市の小学生が隔年で双方の市を訪問し、自然体験活動等を行う。	

## 9. 学識経験者の所見

## 【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	鳥取市の児童生徒が県外市の児童生徒と交流することは意味のあることである。しかし隔年で行ったり来たりだと、鳥取市で姫路や郡山から来た児童生徒と交流するだけの鳥取市の児童生徒と、姫路や郡山に行って交流する児童生徒の2通りが生じ、双方向の実りある交流とはいえない。姫路や郡山に行った鳥取市の同じ児童生徒が、鳥取市でも姫路や郡山で出会った児童生徒を迎えるような交流をすべきではないか？
--------	--

## 【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	姉妹都市との交流事業は継続すること自体に意義がある面もあり、他の事業とは評価において別途の考慮が必要と思われる。一方で、事業が継続的に実施されるにとどまらず、事業の質についての改善の取り組みが進むことを期待したい。
--------	---